令和4年度　学校評価に関するアンケート集計結果　目次

R４ 生徒・保護者一覧　・・・・・　p2

R３ 生徒・保護者一覧　・・・・・　p3

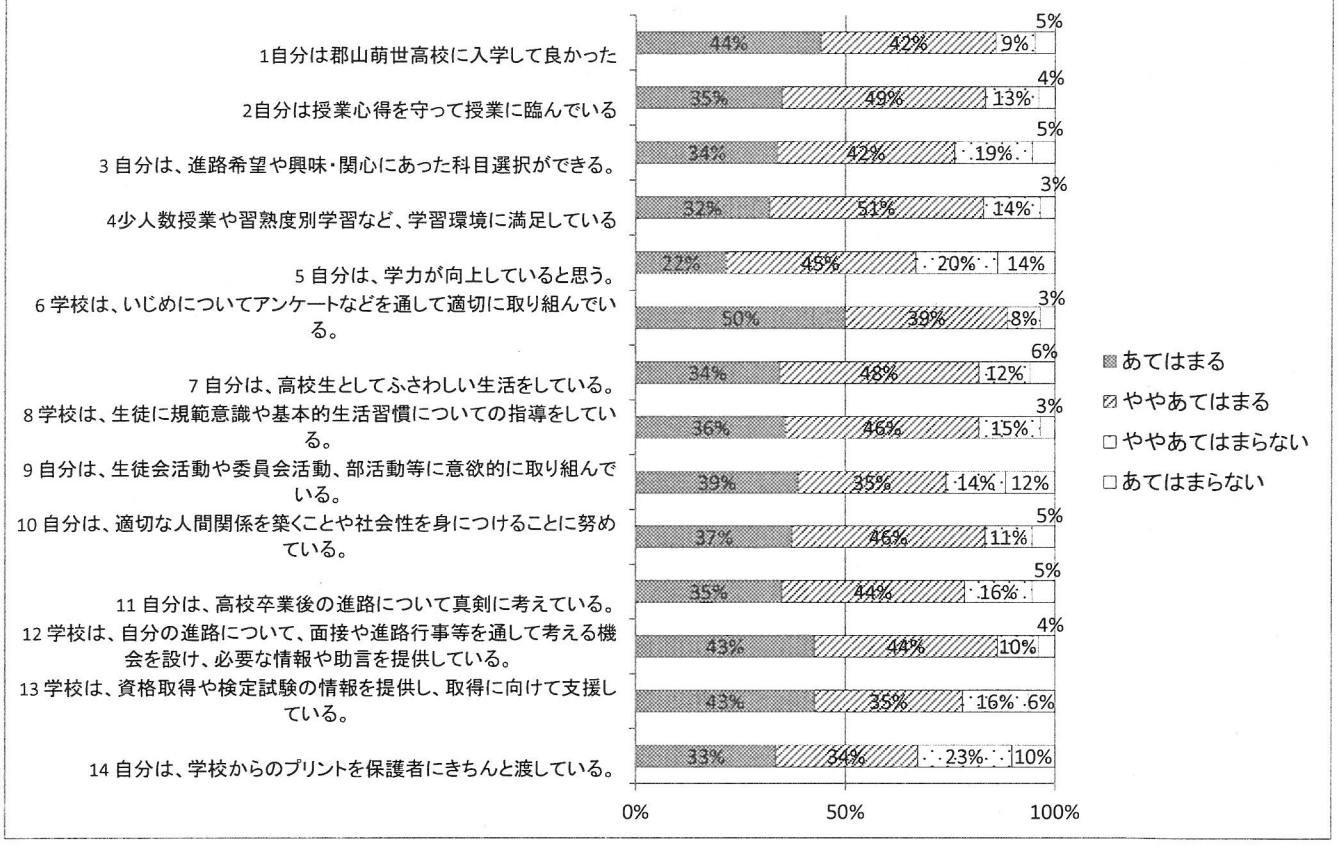
考察　・・・・・　p4～5

令和4年度　学校評価に関するアンケート　回答者数・率

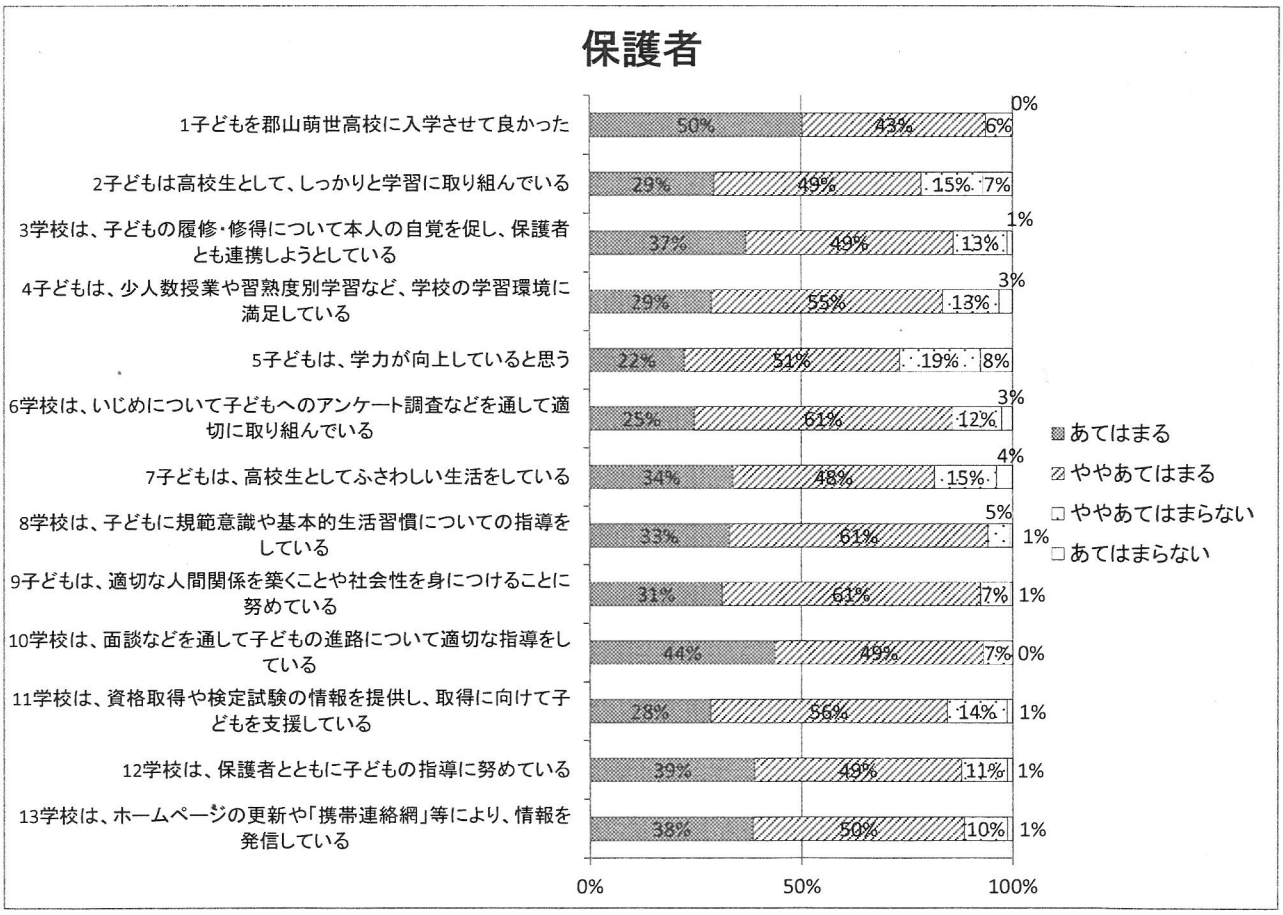
生徒			**204**	**74%**
	１年生	ABC	77	
		D	2	
	２年生	ABC	63	
		D	9	
	３年生	ABC	42	
		D	6	
	４年生	A	5	
保護者			**157**	**57%**

R4 生徒・保護者一覧

生徒

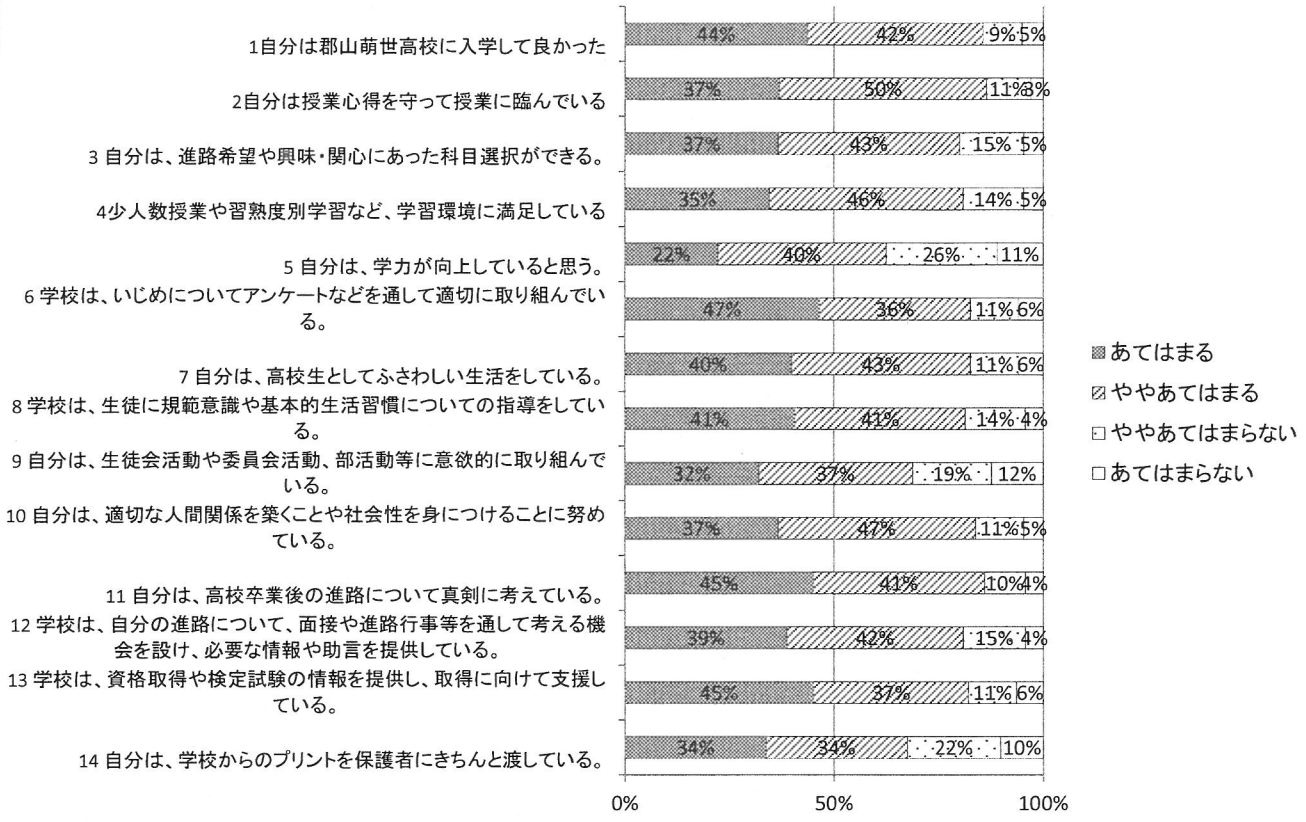


保護者

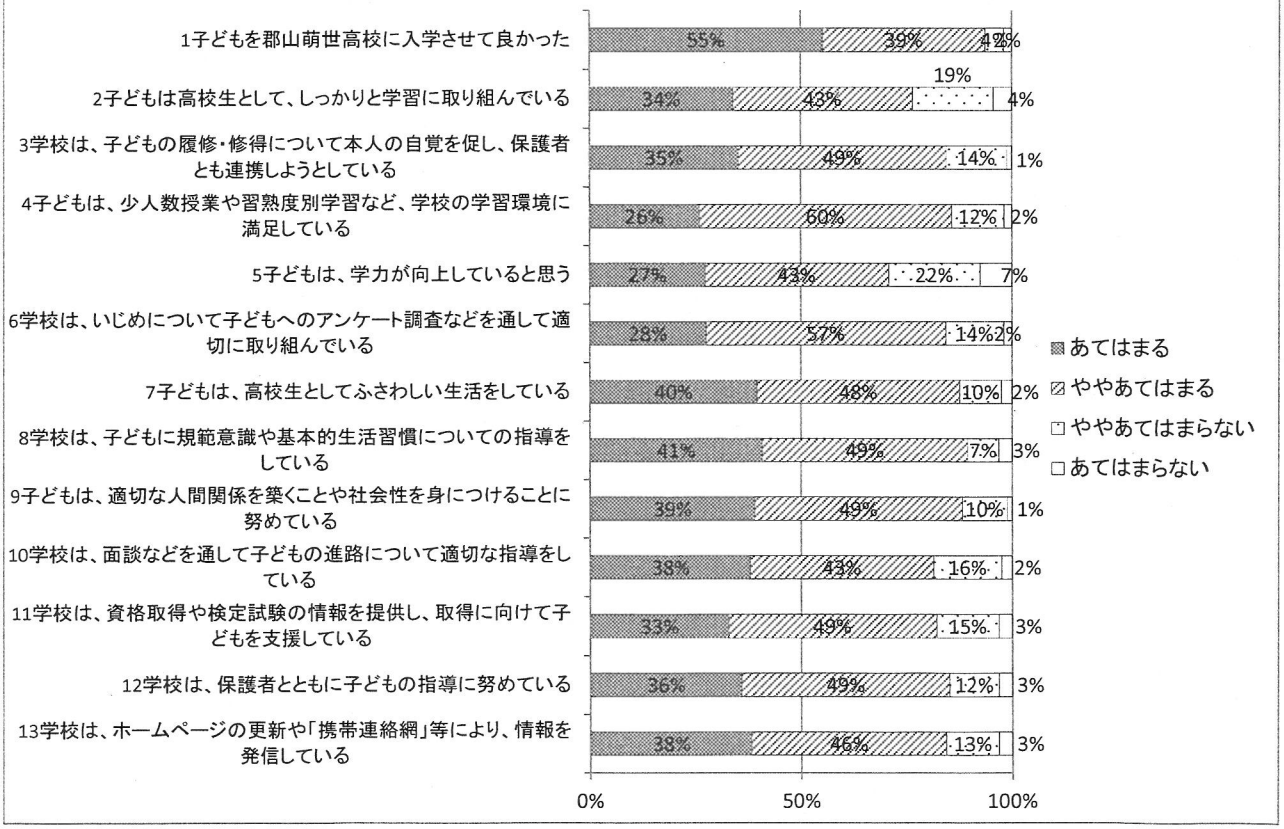


R3 生徒・保護者一覧

生徒



保護者



令和４年度　学校評価に関するアンケートについての考察

１　アンケート回答数について

今回実施した学校評価に関するアンケートの回答数は、生徒が２０４名、保護者が１５７名であった。全体に対する割合は、生徒は７４％（Ｒ３：７３％、Ｒ２：８２％）で、昨年度から１ポイント微増した。保護者は５７％（Ｒ３：５０％、Ｒ２：６１％）と、昨年度から７ポイント増加し、一昨年度に近い回答率が得られた。

２　生徒の回答について

今回調査した１４項目のうち、８項目で「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的回答が８０％を超えた。また、５項目で前年度の評価を上回った。中でも、

「4 少人数授業や習熟度別学習など、学習環境に満足している」８３％（＋２　＊前年度比）

「6 学校は、いじめについての子どもへのアンケート調査などを通して適切に取り組んでいる」８９％（＋６）

「12 学校は、自分の進路について、面接や進路行事等を通して考える機会を設け、必要な情報や助言を提供している」８７％（＋６）

などから、昨年度以上に多くの生徒が本校の学習環境や生徒指導、進路指導について理解し満足していることが分かる。

一方、評価の低い項目や前年度比がマイナスになった項目に目を向けると、

「3 自分は、進路希望や興味・関心にあった科目選択ができる」７６％（－４　＊前年度比）

「11 自分は、高校卒業後の進路について真剣に考えている」７９％（－７）

「14 自分は、学校からのプリントを保護者にきちんと渡している」６７％（－１）

といった結果から、本校生は自分に関する評価が低いことがうかがえる。

これらの回答をまとめると、本校生は学校が行っている指導については高く評価しているが、その指導に自分自身が積極的に取り組めていないと考えていることが分かる。

３　保護者の回答について

嬉しいことに１３項目中１１項目で肯定的評価が８０％を超え、９項目で前年度の数値を上回った。前年度を下回った項目でもその下げ幅はわずかであり、全般的に保護者の本校への評価は高いと言える。特に質問項目が「学校は～」で始まるものについては全ての項目で前年度を上回った。肯定的評価が８０％を超えかつ前年度の評価ポイントを上回ったものは次のとおりである。

「3 学校は、子どもの履修・修得について本人の自覚を促し、保護者とも連携しようとしている」８６％（＋２　＊前年度比）

「6 学校は、いじめについて子どもへのアンケート調査などを通して適切に取り組んでいる」
８６％（＋１）
「8 学校は、子どもに規範意識や基本的生活習慣についての指導をしている」９４％（＋４）
「9 子どもは、適切な人間関係を築くことや社会性を身につけることに努めている」９２％（＋４）
「10 学校は、面談などを通して子どもの進路について適切な指導をしている」９３％（＋１２）
「11 学校は、資格取得や検定試験の情報を提供し、取得に向けて子どもを支援している」
８４％（＋２）
「12 学校は、保護者とともに子どもの指導に努めている」８８％（＋３）
「13 学校は、ホームページの更新や「携帯連絡網」等により、情報を発信している」８８％（＋４）

一方、前年度の評価を下回った３つの項目の中で注視すべき項目は、
「7 子どもは、高校生としてふさわしい生活をしている」８２％（－６　＊前年度比）
である。保護者は学校の生徒指導や進路指導を大いに評価している一方、子どもの学校生活にはまだまだ満足していないことがうかがえる。我々職員はこのことをしっかり認識し今後の教育活動に取り組む必要がある。

４　アンケート結果から見る課題

課題の一つに保護者のアンケート回答率が低い点があげられる。保護者が手軽にアンケートに回答できるようにインターネットを使っての回答方法も今後検討していく必要があろう。

総合評価とも言える「1 郡山萌世高校に入学して（させて）良かった」については、生徒が８６％（±０）、保護者が９３％（－１）と、生徒・保護者ともに非常に評価が高かった。コロナ禍にあっても充実した高校生活を過ごしたいという生徒・保護者の切実な思いを学校が真摯に受け止め、感染症対策を講じながら、公開文化祭、芸術鑑賞教室、体育大会、修学旅行など多くの行事を実施し、生徒会活動や委員会活動、部活動などの諸活動にも取り組ませることができた。これらの「体験」を通して、前回課題として指摘された「自己有用感」や「帰属意識」が高められてきていることが、生徒「9」や「1」の結果などからうかがえる。さらに、保護者「8」でも触れたように、学校生活について新たなルールを定め、保護者の協力も仰ぎながら、生徒たちにその意義について根気強く理解を求めたことで、学校全体に落ち着いた雰囲気が感じられるようになってきている。それらの土台の上に、生徒一人ひとりの状況を丁寧に把握し寄り添い、日々の指導に努めている教職員の姿勢が多くの生徒・保護者に理解・支持され、高い評価につながっているものと思われる。今後とも粘り強い取り組みが求められる。

「5 学力」は、昨年度に引き続き今回も生徒・保護者ともに最もプラス評価の低い項目となった。学習面について見ると、生徒と保護者の「2」と「5」の回答から、授業態度は総じて真面目であるものの、学力向上には家庭学習への取り組みが課題であることを示唆している。学校として ICT の活用や観点別評価の運用を含む授業改善に引き続き取り組むとともに、学力定着のため家庭学習をより一層奨励していく必要がある。